

第 1 回第 3 学年進路説明会

2 0 0 8 年度

平成 2 0 年 5 月 2 0 日(火)

横浜市立洋光台第二中学校

第1回進路説明会資料

2008.5.20.
横浜市立洋光台第二中学校

1、1年間の進路にむけての流れ（あくまで予定です）

- 4月 学習教育相談 担任の先生と自分の将来に向けての最初の話をしてします。三者の場合は保護者の考えも伺います。君たちの意見を重視するために、担任の先生は良き相談相手になります。三者の考えが一致することが進路では大切になります。いろいろな可能性から進路を考えましょう。
- 5月 進路説明会 進路に対する心構えと進路先の情報や最新の情報をわかりやすく説明します。保護者対象です。詳しい日程は後日連絡します。ここで、第1回進路希望調査をとります。
- 高校体験学習 「高校とは」をテーマに半日高校生としての体験をします。
- 6月 進路学習 中間テスト前に「受験と勉強の仕方」というビデオ学習とアンケートをとります。
- 前期中間テスト 進路を決める大切なテストです。計画的に学習しましょう。
- 進路相談 進路学習と第一回進路希望調査の結果をふまえて担任の先生と進路相談をし、7月の三者面談への意識づけをします。
- 7月 振り返りシート
の記入 学校生活の様子を詳しく記入します。資格など細かいことを調査書に記載しますので、自分がやった実績、特に、校外活動なども正式名で記載します。
- 進路三者面談 7月にこの時点までの評定が出ます。これに基づいて三者面談を行い具体的な進路の方向性が少しずつ決まっていきます。就職・専門学校・サポート校を受験する場合は早めの相談が必要です。
- 6月下旬から高校の体験学習や生徒対象の説明会、文化祭が始まります。（学校によっては11月くらいまであります）情報は進路通信でお知らせします。申込み制の場合もありますので連絡を漏らさないようにお願いします。また、この時期は書店で「平成21年度高校受験案内」に関する書籍が発売されますので、情報収集の資料に役立てましょう。夏休みは学校でも学習会を実施する予定です。また、公立高校の選考基準が夏休み開始と同時に発表されます。
- 9月 学習教育相談 夏休みが終わり、期末テストを前にどのくらい進路に対する心構えができているかを確認していきます。簡単な希望調査をします。
- 前期期末テスト 前期の成績を決める大切なテストです。計画的に学習しましょう。
- 10月 進路説明会 進路決定までの経緯と受験までの流れや心構え、手続きなどについてお話しします。進路は1年1年変わるので情報は聞き漏らさないください。保護者対象です。詳しい日程は後日連絡します。ここで、第2回進路希望調査、学区確認調査、学籍調査、3年間の生活調査をとります。

11月 進路三者面談 この面談までに自分の進路がある程度決まっていなければいけません。学校見学を済ませたり、資料収集をして、中間テスト後に出る進路の成績を見てどうするか。前期と現状維持の場合、前期よりも下がった場合、前期よりも上がった場合を想定して志望校の相談ができるようにしましょう。特に、公立前期選抜や私立高校は具体的な話までできるようにしましょう。ここで、第3回の進路希望調査を配ります。

後期中間テスト 進路の成績を決める大切なテストです。計画的に学習しましょう。

12月 振り返りシート
の記入 学校生活の様子を詳しく記入します。資格など細かいことを調査書に記載しますので、自分がやった実績、特に、校外活動なども正式名で記載します。

資格コピーの回収 調査書に記載したり、出願に必要なになります。

進路三者面談 この面談で進路の最終決定です。公立・私立問わずにすべての高校受験の流れを担当の先生と確認します。

三者面談が終わったら、受験写真 願書の下書き・清書 公立前期は自己PR書が必要です。担任の先生に、を見せること。また、自己PRをもとに模擬面接が行われます。自分のことばで入学の意志が伝えられるように。冬休みからは模擬テストを受けたり、受験を意識した行動を。

1月 模擬面接、調査書記載事項チェック
私立推薦出願・入試・発表
公立前期出願・入試
私立一般、公立後期出願準備（願書の下書き、清書）

学年末テスト 洋光台第二中学校で受ける最後のテストです。気を抜かずに取り組みましょう。後期の成績は進学した学校に送られます。手を抜けば人間性が見られてしまいます。万一退学した場合、再受験するときも最後の成績対象になります。

2月 公立前期発表
私立一般・オープン出願・入試・発表
公立後期出願・志願変更・入試

3月 公立後期発表

二次募集や定時制、通信制については、どのような動きになるかわかりませんので後日お知らせします。合格者については原則として新たに違う学校を受験することはできません。

2、中学校卒業後の進路を考えるにあたって

昨年度の卒業生は全員卒業式前に自分の進路先を決定することができました。早くから専門学校や就職を希望して合格した人もいましたが、大半の人は高等学校に進学しました。就職に関しては昨年は中学生への求人数が増加傾向になりました。専門学校については高等学校の資格（通信制になりますが）がとれる学校と連携しているところに進学する割合が多く見られました。高等学校は公立高校の再編が進み、個性あふれる学校が増えつつあります。また、学区制の撤廃が定着したことで様々な方面への受験が目立つようになり、それだけ早くからの情報収集の必要性が求められるようになりました。早くから進路を考えることが進路決定の近道になります。

（1）高等学校の課程は3種類のものがあります。（いつ勉強するのか）

全日制 中学校と同じ朝から午後の時間帯で授業が進められます。最近、2学期制をとる学校が増えていきます。卒業までにかかる修業年数は3年間です。神奈川県にある大半の高等学校がこの課程です。

定時制 夕方から夜（午後5時～午後9時ごろ）の時間帯に授業が進められます。卒業までにかかる修業年数は4年間ですが、3年間で卒業できる学校もあります。対象は昼間働きながら勉強をしたいという人が多かったのですが、横浜市立横浜総合高校のように三部制（午前・午後、午後・夕方、夕方・夜間）というスタイルをとることによって自分の生活のリズムに応じて授業を受けたいという人のニーズに合わせた定時制もあります。最近では高校の中途退学者の入学が増加しているのも特徴です。

通信制 毎日の通学が困難な人のために、指定されたテキストを使って自宅で学習し、レポートの提出と月2、3回程度のスクーリング（学校に登校）で先生の指導助言を受けます。修業年数は3年以上です。

最近では(1)専門学校と技能連携を図っている通信制の高校（専門学校にしながら、通信制高校の先生による授業や課題が出されたりする）
(2)全日制課程のように朝から午後の時間帯に授業が進められる通信制の高校（サポート校といわれる学校もこのタイプ）
(3)本年度開校した修悠館高校のように、通信教育の特性を生かしながら、IT環境を生かして自宅学習を中心に学んだり、先生から直接指導を受けながら計画的に学習し、一人ひとりの学びの場が広がる通信制高校もあります。カウンセリングの体制が充実し、社会で生きていくのに必要な資格の取得を目指します。（全日制のように毎日登校できる魅力があります）

（2）高等学校の学科は3種類のものがあります。（どんな勉強をするのか）

普通科 中学校での勉強内容をさらに幅広く身につけることを目的にしています。国語・数学・英語・社会・理科の5教科の学習内容が増えるとともに、学年が進むにつれて、大学などへの進路を考えて文系、理系と進むコースが分かれていきます。横浜緑ヶ丘高校、氷取沢高校、横浜立野高校などはこのタイプに入ります。

最近では新しいタイプの普通科高校が次々生まれています。

ア、単位制普通科 3年間で卒業に必要な単位（必修科目と選択科目）を習得するため、自分で授業の時間割をつくることができます。クラス・学年の枠を超えて授業

を受けることができるため、自分の興味・関心や生活スタイル、進路など様々なニーズに合わせて学習できるという特徴があります。神奈川総合高校はこのタイプの高校です。(横浜市立金沢高校、横浜市立南高校のように市立高校の単位制や来年度開校予定の港南台高校と上郷高校の再編校は完全な単位制ではありません。)

イ、普通科専門コース 普通科の科目を中心に勉強しながらも、それ以外に専門的な科目を3年間で10～20単位程度学習します。横浜南陵高校は今までの普通科のほかに健康福祉コースとして生徒募集を行っています。ほかには磯子高校の国際ビジネスコース、釜利谷高校の体育コースなどがあります。

ウ、フレキシブルスクール 単位制普通科のなかでも、1日のスケジュールを全日制課程でも定時制課程でも自分のニーズに合わせて組むことができます。時間割の組み方によっては3年間で単位を取得することができます。横浜桜陽高校がこのタイプになります。

専門学科 以前は職業科と言われていました。専門学科は将来の仕事のスペシャリストとしての専門的な知識や技術を身につけるために専門科目を25単位以上学習します。高校在学中に仕事をするうえでの資格取得を目指す学校が多くなりました。専門学科には工業科(分野別では機械科、電気科、建築科、土木科など)商業科、農業科、国際学科などがありますが、入学当初は具体的な分野別に入学せずに、あとから分野を分ける総合技術高校(工業系...例、藤沢工科高校)や総合ビジネス分野を目指す高校(商業系...小田原総合ビジネス高校)があります。また、単位制の専門学科として海洋科学の分野を目指す海洋科学高校、国際情報の分野を目指す横浜国際高校などが誕生しています。他にも、神奈川総合産業高校(すべての専門学科の分野がある)や弥栄高校(集合型専門高校...国際科、芸術科、理数科など新しい分野が相互関連した専門学科)があります。来年度には横浜市立の理数科の専門学科として横浜サイエンスフロンティア高校が誕生します。

総合学科 普通科で学ぶ幅広い教養を身につけると同時に、専門学科で学ぶ専門技術や知識を単位制の下で取得します。必修科目として普通科の内容を学習する以外に、「産業社会と人間」という体験学習を通じて自分の適性を知り、将来の生き方を考える学習があります。あとは、選択科目で普通科の内容と専門学科の内容を取得します。総合学科は単位制なので自分で時間割を作成します。将来への展望がないと入学後たいへんな思いをすることになります。学校によって選択科目の内容に違いがあるのでしっかり調べてから受験しましょう。

(3) 高等学校の運営には2種類のものがある(だれが経営しているの)

公立高校 神奈川県や横浜市などの行政がつくった学校です。県がつくった「県立」と市がつくった「市立」に分類されます。入学金や学費が比較的安いことが特徴です。最近では学校ごとに「特色ある学校づくり」を目指していて、入試制度にも独自性が発揮されるようになりました。多岐にわたるため自分の個性をいかすことができます。

私立高校 民間の「学校法人」が経営しています。公立と比べると入学金や学費は高いですが、独自の教育方針による教育を行っています。私立は県外の高校を受験することも可能で、大学の付属校やスポーツがさかんな学校、宗教教育を行う学校、さらには特進コースがあって大学進学を目指して学習するなど様々な特徴を持っています。

学費については（平成20年度入学生の場合）

公立高校（全日制）の場合	検定料	2200円（定時制 950円	横浜市定時制 650円）
	入学金	5650円（定時制 2100円	横浜市定時制 1200円）
	授業料	118800円（定時制 31200円	横浜市定時制 34800円）

私立高校の場合	受験料	20000円程度
	入学金	20万円～30万円前後
	授業料（月額）	4万円程度
	他に、施設費を合わせると、	70万円～120万円程度 (80万円～90万円が平均)

学校によっては、入学してから学費を貸与してくれる奨学金の制度がありますので、様々な条件を事前に知っておくと便利です。是非高校説明会に出かけたりして情報を得ておくといいでしょう。自分の適性や家庭の経済状態などを考え、長期的な展望から公立、私立は選択しましょう。

3、入学者選抜制度について

（1）公立高校の入学者選抜制度（学区は県立高校と横須賀市立横須賀総合高校にはありません）

「前期選抜」と「後期選抜」があります。前期選抜に合格した場合は、後期選抜は受験できません。（不合格者の窓口を広げることや本人の第一希望の意志に責任を持たせることが大切）

ア、前期選抜（志願は一校、志願変更なし）

- ・すべての公立高校の全日制、定時制、通信制で実施します。日程は同じ日です。（昨年度は1月中旬 出願、1月下旬 試験、2月初め 発表）
- ・学力検査を行わずに、公立高校が独自の選考重視内容を事前に公表する「総合的選考にあたって重視する内容」に基づいて、調査書（3年間の中学校生活の記録）と面接などをもとに選考します。（選考重視内容閲覧予定：平成19年7月 <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/koko-kyoiku/kenritu/nyusen/k-nyusen.htm>）
- ・面接は願書とともに提出した1枚の自己PR書を参考にしながら実施します。学校によっては調査書、面接以外に、作文（昨年度は柏陽、光陵高校など）や実技検査（上矢部陶芸コースなど）、自己表現活動（例、スピーチや寸劇 神奈川総合、鎌倉高校など）を実施します。
- ・前期選抜の募集定員は募集定員の20%～50%で、各高校が定めます。（残りが後期選抜の割合）

イ、後期選抜（志願は一校、志願変更あり、前期合格者は受験資格なし）

- ・すべての公立高校で実施します。日程はそれぞれ違います。ただし、横浜総合高校と平塚農業初声分校は全日制と同じ日程で行います。定時制・通信制は全日制の後期日程とは別で全日制の合格発表後に実施します。
（全日制は2月初旬 出願、2月下旬 入試、3月初め 発表 定時制・通信制は不合格者のみ）
- ・普通科（単位制、専門コースを除く）では学力検査と調査書の評点による数値を中心に選考します。単位制普通科、普通科専門コース、専門学科や総合学科は総合的選考を行います。

- ・ 学力検査と調査書の割合や傾斜配点、学力検査の実施教科（全日制が3教科～5教科、定時制が3教科）が学校によって違います。7月に配布予定の「入学者募集案内」で確認してください。また、国語・数学、英語を学校独自の問題で実施する学校があります。昨年度実施校は横浜翠嵐、柏陽、光陵、横須賀、湘南、鎌倉、平塚江南、多摩、小田原、横浜国際の10校です。（鎌倉は英語・数学、横浜国際は英語のみ）

後期選抜の「調査書の学習の記録」と「学力検査の数値」から換算した数値とは
（各高校で数値の扱いは様々）

調査書の学習記録： $A = (2 \text{年} 9 \text{教科の評点合計}) + (3 \text{年} 9 \text{教科の評点合計}) \times 2 = 135 \text{点満点}$
学力検査の数値： $B = 3 \sim 5 \text{教科の各教科の得点合計} < \text{例、各} 50 \text{点} \times 5 \text{教科} = 250 \text{点満点} >$

数値： $C = a (A \text{を} 100 \text{点満点に換算した数値}) \times m + b (B \text{を} 100 \text{点満点で換算した数値}) \times n$

後期選抜の80%はC値の高い順で決まります。残り20%は各高校ごとの選考基準で決まります。学校によって $m : n = 4 : 6$ （5 : 5 や 6 : 4 の場合も）と違いますので、何を重視した選考基準なのか判断する必要があります。

単位制普通科、普通科専門コース、専門学科、総合学科は $m : n$ は設けていません。

来年度、大楠、釜利谷、田奈の3校については後期選抜に学力検査を導入せずに新しい入試制度を導入します。（前期選抜の募集率を50%から80%に拡大）詳細は追ってお知らせします。また、鶴見工業は募集停止になります。

公立高校は入試制度だけでなく、学校による特色も様々になってきました。それぞれの高校の特色や説明会の情報は「はいすくーる・わんだ～らんど」でネット検索してください。

（2）私立高校の入試選抜制度

- ア、推薦 ...その学校が第一志望で他校は一切受験できません。選考は調査書と面接のみです。その学校の入学の条件に合わない場合は受験できません。
- イ、推薦 ...公立の前期選抜のみ受験が可という方法です。公立前期を不合格になった場合は、その学校に入学する約束になりますので、公立の後期選抜その他の受験はできません。推薦と同じで、選考は調査書と面接のみです。その学校の入学条件に合わない場合は受験できません。
- ウ、専願 ...その学校が第一希望で、推薦では厳しい場合に受験するケースが多いです。選考は調査書と筆記試験と面接が中心です。他校の受験はできません。
- エ、併願 ...主に公立高校の後期選抜を第一希望に考えて受験することを言います。最近はオープン入試を第一に、公立・私立との併願のケースが増えています。併願の条件を満たしていることが前提で、選考は調査書と筆記試験と面接が中心です。公立高校や私立高校の合格発表まで入学金などを待ってくれる学校とそうでない学校があるので確認しましょう。（入学金を待ってくれる学校で「延納手続き」が必要な学校もあります）
- オ、一般 ...オープン入試と言われ、当日の入試のみで合否が決まります。実力勝負ですので併願校にはなりません。公立後期選抜の発表まで入学金などを待ってくれる学校が多いです。

4、保護者の方をお願いしたいこと

(1) 間違えた進路選択をしないために

禁句1 とりあえず高校だけは行く

中学校卒業後の進路は進学か就職かです。働くということは責任が伴います。また、今は職種を選べません。また、高校の資格がないと仕事に就くときに困るのが現実です。だから、高校くらいは出ておかないとという考えは中途退学の原因になります。高校に行くと決めたなら、「将来のための通過点という道具や手段」にせず「目的を持って3年間楽しく過ごせる」ところを選びましょう。

禁句2 この成績だったらどの高校に入れるか？

面談をしていてよく聞く答えに「私はいい高校を出て、いい大学に行って、いい会社に就職したい」という答えがあります。「いい高校って何でしょうか？」「いい大学って何でしょうか？」多くの人の答えは社会的に有名だったり、進学率が良かったりするところを指すようですが、その人の生き方に一番ふさわしいものがいい高校、いい大学、いい会社だと思います。客観性や社会の意見に惑わされず自分らしい生き方ができる人が幸せだと思います。成績だけで高校を選ぶのも同じこと。自分らしさを大切に。

禁句3 高校に進学するために勉強する

勉強は進学という目的だけのためにやるものではありません。入試が終われば勉強しないという考えを捨てないといつまでたってもテストの直前しか勉強しない人になってしまいます。大切なことは「入学までの勉強ではなく、入学してからの勉強のために勉強する」ことではないでしょうか。

(2) 親子で話し合うポイント

最終的な進路はお子様の希望するものか。 本人の意志がはっきりしているか。

進路先はお子様の適正や能力に合っているものか。 幅広い選択肢が必要。

進路先は目的にあった進路選択か。 理想と現実のギャップはどうか。

(3) 1年間どのようにお子様のことを考え、見守っていくか

例年、受験が近づくとつれて緊張感だけでなく、不安感から体のバランスが崩れてしまい、精神的に追い込まれてイライラする光景を多く見かけます。そんなときに頼りになるのは身近にいる保護者の方です。いかにお子様をリラックスした環境のなかで生活させるかが大切になってきます。そこで、次のことを今から心がけて接するようお願いいたします。(甘やかしたり、いっしょにハラハラ、ドキドキして顔色をうかがったりせず正面からぶつかってください)

お子様のことを冷静に見つめ（適性や能力）、何を考えているのか（将来の希望）を知る。

世間体にこだわらず、親の期待が過剰にならないように。

過小評価して、伸びよう・やろうという芽を摘まないように。

いつでも話ができる雰囲気・環境づくりを心がける。

お子様に焦りや不安を与えるのではなく、良き相談相手になる。

お子様の体力、通学（勤）時間、家庭の事情などから無理のない進路を考える。

うわさや不確実な情報に惑わされずに正しい情報収集を心がける。

進路先に何度も足を運び、進路先のことを直接知る。（説明会、文化祭など）

（４）卒業後の進路に関する情報は、

- ・進路通信で様々な情報をキャッチすること。
- ・教室にある進路関係の本に目を通すこと。
- ・実際にいろいろな学校に足を運ぶこと。（高校体験学習はそのきっかけ作り）

その学校の特徴や行事・部活のこと、受験のシステム、卒業後の進路などが知り、この学校なら3年間やれると思うかどうか考えましょう。選択肢は多い方が自分の学力と合わせやすくなります。

主役はお子様です。お子様と十分な話し合いの結果で進路決定をお願いします。11月の進路三者面談には方向性が決まり、12月の進路三者面談が最終決定になります。担任の先生としっかり相談して、不確実な情報に惑わされないようにお願いします。（進路通信は最新の進路情報をお届けします。文化祭や高校説明会・体験学習会・高校見学会のお知らせを逃さないようにお願いします。教室にも進路情報が掲示されています）

（お知らせ）

第一回目の進路希望調査を配布いたします。5月30日（金）までに担任の先生に提出ください。

神奈川の公立展のプリントを配布しました。5月31日（土）の10:00～15:00までパシフィコ横浜の展示ホールで行います。全公立高校の情報資料収集のチャンスですが、午前中にいかないとパンフレットや学校紹介のイベントが終わってしまいます。興味がありましたら参加してみてください。

来年度新設の横浜サイエンスフロンティア高校のパンフレットをお配りしました。7月26日（土）から学校説明会が始まります。申し込み制ではありません。具体的な時間がわかりましたら進路通信を通して連絡します。新校の概要はパンフレットをお読みください。